

平成 13 年度 卒業研究論文口述試験資料

平成 13 年 12 月 13 日(木)

102062F 日下智裕

研究題目 「高校の課外合唱活動における指導の真髓」
～コンクール全国大会出場校のフィールドワークを通して～

目次

第 1 部 序論

1. 研究の動機及び目的
2. 先行研究
3. 研究の方法
4. 研究の構成

第 2 部 本論

第 1 章 埼玉栄高等学校コーラス部

- 1.1 6 月 22 目の練習
- 1.2 7 月 26 日の練習
- 1.3 9 月 21 日の練習
- 1.4 NHK 全国コンクールにおける演奏
- 1.5 考察

第 2 章 栃木県立栃木女子高等学校合唱団

- 2.1 6 月 16 日の練習
- 2.2 7 月 21 日の練習
- 2.3 9 月 27 目の練習
- 2.4 NHK 全国コンクールにおける演奏
- 2.5 考察

第 3 章 比較と考察

- 3.1 発声指導について
- 3.2 リズム指導について
- 3.3 音程の指導について
- 3.4 表現の指導について
- 3.5 NHK 課題曲及び鈴木輝昭作品の演奏について

第 3 部 結論

1. 本論のまとめ
2. 今後の課題

<議辞>

<後書き>

<参考文献・引用文献>

<付録>

参考文献引用文献

- ・小山章三『合唱と教育と』音楽之友社 1981 年
- ・『新訂 合唱辞典』音楽之友社 1967 年
- ・教育音楽小学版 / 中学・高校版[別冊]実践指導シリーズ『うたごころを育てる合唱「うたいたい気持ち」から「表現」へ』音楽之友社 1991 年
- ・教育音楽小学版 / 中学・高校版[別冊]『[合唱]効率的な練習法 楽しい練習を進める指導のアイディエ集』音楽之友社 1997 年
- ・伊藤雅子・藤井憲・渡辺陸雄『音楽教育選書 1 一児童発声の研究と合唱指導』明治図書出版 1976 年

研究の方法

2001 年 6 月から 10 月にかけて、NHK 全国学校音楽コンクール全国コンクールに毎年出

場している、埼玉県埼玉栄高等学校コーラス部(混声合唱)、栃木県立栃木女子高等学校合唱団(女声合唱)の2校を取材し、指導者と団員の活動を中心に参与観察を行った。この2団体を選択した理由は、2団体ともNHK学校音楽コンクールや全日本合唱コンクール等において、毎年全国大会まで出場しているという実力があるということがその理由の一つである。また、2団体とも日本のみならず、ヨーロッパやアメリカを舞台に、海外で演奏活動を行うほどの実力があるということがもう一つの理由である。

2団体とも、練習風景をビデオカメラで記録し、そのビデオ資料に基づき、指導者の指示や生徒の活動を発声指導、リズム指導、音程指導、表現指導の4項目に分け、それぞれ指導法の分析を行った。最終的には、2団体の合唱指導を比較することにより、合唱指導の真髄について考究する。

研究結果

今回の論文を書くにあたって選択した2校の指導者は非常に対照的な合唱指導を行っていた。

埼玉栄高等学校コーラス部の蓮沼善文氏における合唱指導は、一言でいえば非常に人情味のあふれる指導ということができる。というのは、蓮沼氏は、練習中において生徒との会話を通して、積極的にコミュニケーションを取ろうとし、音楽に対しても自分が絶対であるという姿勢はなく、様々な要求を投げかけては、生徒達に考えさせながら合唱を作り上げていこうとする姿勢が見て取れるからである。

これに対して、栃木女子高等学校合唱団の須藤礼子氏による合唱指導は、須藤氏自身が生徒達にとってお手本であり、かつ自分達の目指す目標であるということができる。すなわち、須藤氏が生徒達の先頭に立って、積極的に引っ張っていく合唱指導ということができる。

以上のように、合唱指導のスタイルは対照的であるものの、この両者には共通してみられる指導法が幾つかあることに気づくことができた。それは以下の通りである。

どちらの指導者も範唱を中心とした合唱指導であること。

どちらも指導者も、生徒達の発声指導に重心を置いているということ。

これは直接指導法には関係しないが、両指導者とも生徒達に絶対的な信頼を得ていたということ。

これらのこと踏まえ、高校の課外合唱活動における指導の真髄を考察してみた。まず、合唱指導者として必要なことは、生徒達を納得させることのできるテクニックであると考える。テクニックというのは発声面や歌唱面における技術のことである。というのは、このテクニックを指導者が持ち合わせることによって、生徒達により具体的な事例で働きかけることができ、生徒達の理解を深めることができると考えるからである。もう一つは、指導者自身の個性であると考える。個性というのは、生徒達を引き込むことのできる指導者自身の魅力といつてもよいであろう。このような指導者の個性が、生徒達の気持ちを振り動かすことによって、生徒達が指導者に引かれると同時に、合唱するということに関しての興味や関心を喚起するのではないかと考える。そしてさらには、この指導者のテクニックと個性が、指導者と生徒との間に信頼関係をもたらすのではないかと考えるのである。すなわち、合唱指導の真髄とは、指導者の持つテクニックと強い個性とによって、生徒達が指導者に魅力を感じ、合唱活動そのものに感化されていくことであり、そういう活動が指導者と生徒との間に信頼関係を生み出すということがいえるであろう。